

(4) MICE誘致の新たな展開

基本的な考え方

MICEの誘致について、国際的な競争が激しさを増す中で、東京の魅力を引き出すための態勢づくりや対応のレベルを引き上げるとともに、外国企業による会議の開催など、国際会議以外の分野にも力を入れていく。また、多くの外国人参加者が見込まれる国際会議等を都内で生み出す対応も進める。

受入環境の充実

- MICE開催の基礎となる会場機能のレベルの維持と向上を図るとともに、区部に加えて多摩地域でもMICE開催の環境整備を進めていく。

ユニークベニューの活用推進

- MICE開催都市としての魅力を高めるため、MICE開催後のレセプション会場等として、歴史的建造物や文化施設を活用する「ユニークベニュー」の活用推進に関する取組を進めていく。

外国企業の会議や報奨旅行の誘致

- 外国企業が主催する会議や報奨旅行などを東京に呼び込むための様々な施策のレベルを確実に高めていく。

東京での国際会議等の創出

- 将来のMICE誘致の対象として有利な形で開催を実現することのできる国際会議などを東京で作り出していく。また、都内で開催される国内会議に外国人の参加を促し国際化する取組を推進する。

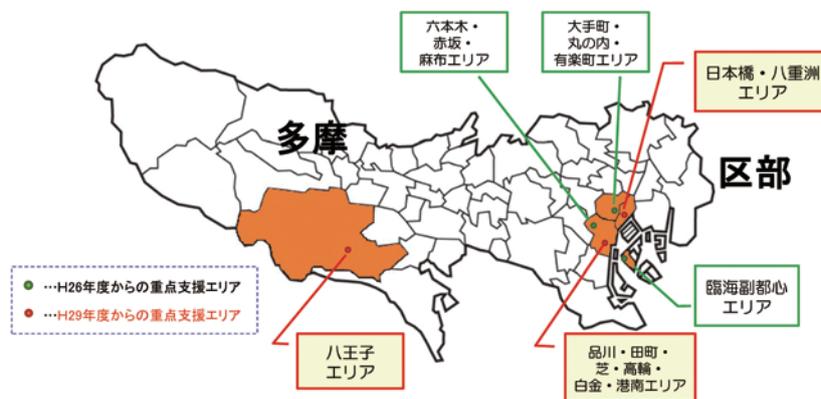
現状と課題

(MICE施設等の受入環境の向上)

- MICEを巡る厳しい国際競争に勝ち抜くためには、会場となる施設等の更新や機能向上を着実に進めて、受入環境の維持や充実を図ることが重要となっている。

(都心部以外の地域におけるMICE開催の環境整備)

- 現在、東京でのMICEの開催は会議場やホテルなどの関連施設が集積する都心部が中心となっており、今後は多摩地域など都心部以外の地域でもMICE開催の環境整備を進めていくことが課題となっている。



(ユニークベニューの活用推進に向けた取組)

- 都市が有する歴史的な建造物や文化施設などを、MICE開催後のレセプション会場等として利用する「ユニークベニュー」の取組は、海外都市では積極的に行われている。東京においてもMICE開催に伴うユニークベニューの活用を推進し、他都市との差別化を図る必要がある。
- ユニークベニューの活用推進のためには、諸外国と比較して遅れをとっているMICE主催者等に向けた施設の魅力や使用方法等の積極的な情報発信とともに、主催者等が実施にあたって必要となる行政機関への煩雑な手続き、施設側の事例やノウハウの少なさ、必要な機器や設備等の整備などの負担が課題となっている。

（報奨旅行等の誘致・開催に向けた支援の充実）

- MICEの中で報奨旅行や企業系会議の誘致・開催に向けた支援については、海外競合都市における対応が進んでおり、都としても一層の施策の強化を図ることが必要である。

＜誘致支援＞

主催者等の事前視察への支援



＜開催支援＞

アトラクションの提供（相撲鑑賞）



（国際会議等の創出）

- 既存の国際会議等を誘致するだけでなく、新しく国際会議等を設定し、東京での開催を図るような動きや都内で開催される国内会議に外国人を多く呼び込み、国際化を図る動きについても適切な対応を進めていくことが課題となっている。

（MICEに係る人材育成）

- MICEに係る専門人材については、これまで基礎的な研修を行ってきたが、今後は基礎的な講座に加えてより実践的で高いレベルの専門知識・ノウハウを提供することで、国際水準の人材を育成していく必要がある。

（MICE関係者の連携の充実）

- 東京観光財団が中心となり、東京都や国、政府観光局、民間事業者、地域の団体、主催者などの関係主体の協力による「東京都MICE連携推進協議会」を平成29年に設置した。今後、MICE誘致を効果的に進めるため、課題及び連携の手法を具体化し、官民連携の体制を充実させていく必要がある。

平成 30 年度の主な施策展開

(MICE施設に対する受入環境整備の支援)

- 国際会議等の会場となる会議施設やホテル、大学などの施設機能の強化を図るため、無線LANやデジタルサイネージ、高解像度プロジェクターなどの設備の導入や充実等を支援する。

<MICE開催に必要な施設機能(例示)>

情報通信機能	映像機能	会場設備機能	多言語対応機能	セキュリティ機能
<ul style="list-style-type: none"> ・無線LAN設備 ・デジタルサイネージ 	<ul style="list-style-type: none"> ・(天吊り型)高解像度プロジェクター(4K、8K) ・大型スクリーン 	<ul style="list-style-type: none"> ・同時通訳システム ・外国人の体型に対応した什器類 	<ul style="list-style-type: none"> ・HPやパンフレット等広報物の多言語化 ・案内表示等の多言語化 	<ul style="list-style-type: none"> ・高性能防犯カメラ ・入退室管理システム(アクセスコントロール)

<(天吊り型)高解像度プロジェクター>



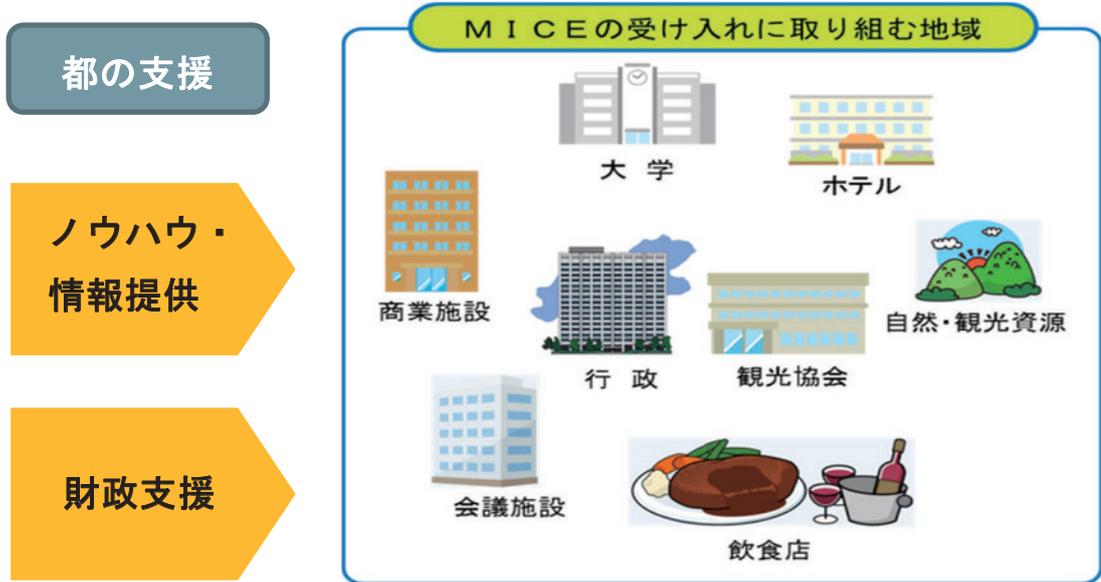
<同時通訳システム>



(多摩地域におけるMICE開催の拠点の育成)

- 多摩地域においてMICEの開催を増やしていくために、MICEの受入体制強化に向けた地域の取組を支援するとともに、それらの誘致や開催に関するノウハウや情報を提供していく。
また、多摩地域での開催に伴う課題に対応するため、人材育成に対する支援の強化を図る。

<支援のイメージ>

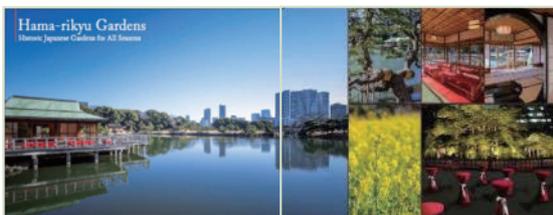


(ユニークベニューの活用の推進)

- ▶ 美術館や博物館、庭園などの都立施設の中で、ユニークベニューとしての利用が可能な施設について、MICE開催時に主催者がレセプション会場等として活用できるよう様々な課題を検証し、その利用の促進を図る。
- ▶ 都内でユニークベニューとして活用できる施設を増やしていくため、利用が見込まれる民間の文化施設や歴史的建造物等について、開放に向けた取組を進めていく。
- ▶ 国内外のMICE主催者等に向けてユニークベニューの魅力を効果的に発信するため、ユニークベニューを紹介するウェブサイトを開設するとともに、既存のPRパンフレットの内容充実・更新を図る。

<PRパンフレット>

浜離宮恩賜庭園



すみだ北斎美術館



<都内ユニークベニュー施設の一例>

【都立施設】

浜離宮恩賜庭園



清澄庭園



東京都庭園美術館



東京都美術館



東京都写真美術館



江戸東京たてもの園



葛西臨海水族園



東京都庁 45 階南展望室



【民間等施設】

すみだ北斎美術館



上野の森美術館



乃木神社



池上本門寺



福德の森



東京スカイツリータウン®



©TOKYO-SKYTREETOWN

六本木ヒルズアリーナ・毛利庭園



虎ノ門ヒルズ オーバル広場



アーク・カラヤン広場



マダム・タッソー東京



キッズニア東京



よみうりランド



3×3 Lab Future



寺田倉庫



6 観光産業振興に向けた
今後の施策展開

- MICEの主催者等に対し、ユニークベニューとして利用可能な施設の紹介や施設側との調整、行政機関への手続き支援など、ユニークベニューの利用に関して、ワンストップで総合的な支援を行う窓口を設置し、利用者と施設のマッチングを推進する。

<事業イメージ>



浜離宮恩賜庭園をユニークベニューとして活用した例（イメージ）



写真：イベント「Tokyo Prime Night」（平成29年10月）

- 都内におけるユニークベニューの活用を推進するため、会場となる施設に対し、イベントやレセプション等を開催する際に必要となる電源設備や、給排水設備等の受入環境の充実を支援する。

<ユニークベニュー開催に必要な施設機能（例示）>

防音機能	会場設備機能	その他機能
<ul style="list-style-type: none"> ○指向性スピーカー ○防音設備（防音壁等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○電源設備 ○給排水設備（簡易厨房等） ○暗幕／パーティション ○照明設備（屋外照明等） 	<ul style="list-style-type: none"> ○利用案内冊子／ホームページの多言語化 ○無線LAN

- 都市が有する歴史的な建造物や文化施設などを、MICE開催後のレセプション会場等として活用する“ユニークベニュー”の取組は、海外都市では積極的に行われています。
- イギリス・ロンドンでは、1993年に設立された“Unique Venues Of London (UVL)”という協会組織が、ユニークベニュー利用促進のためのワンストップ窓口を担っており、ユニークベニューの検索サイトを運営しています。現在、検索サイトには、セント・ポール大聖堂やケンシントン宮殿をはじめとして、86の施設が登録されており、施設の所在地や収容能力、用途などが分かりやすく掲載されています。
- また、オーストラリア・シドニーでも、2000年に設立された“Sydney’s Unique Venues Association (SUVA)”という組織が、UVLと同様の役割を担っています。

＜イギリス・ロンドンのユニークベニューの例＞

テート・モダン

(国立の近現代美術館)



スペンサーハウス

(スペンサー伯爵邸)



（報奨旅行等の開催時の支援）

- ▶ 海外企業が行う都内での会議開催や報奨旅行への支援について、引き続き小規模の旅行等も対象として支援を行っていく。
- ▶ 報奨旅行等が開催された際に外国人参加者に対して提供する日本の魅力を体験できる様々なアトラクションについて、内容の充実を図るとともに、外国人参加者を惹きつける新たなメニューの開発に取り組む。

＜開催時に提供するアトラクションの例＞

太鼓レッスン体験



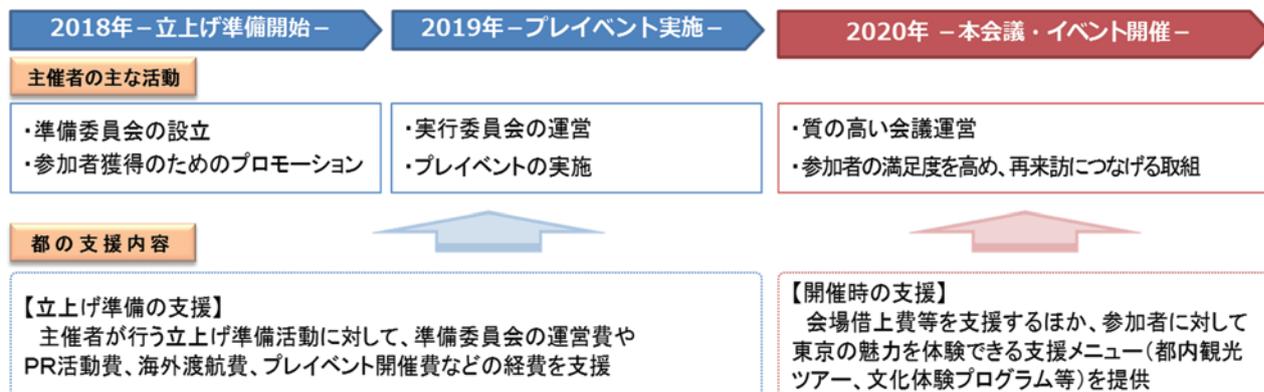
阿波踊りパフォーマンス（高円寺）



（立上げ型国際会議等に対する支援）

- ▶ 海外から多くの参加者が見込まれる国際会議や国際イベントを新たに東京で立ち上げて開催を図る取組について、体制構築やPR活動など準備に必要な経費や、会場借上費など会議開催時に必要となる経費の支援を行う。

＜支援スキームの例（2020年の開催に向けて2018年から準備）＞



(国内会議の国際化支援)

- ▶ 都内で開催される国内会議を国際化するために必要となる同時通訳や資料翻訳など会議の多言語化や海外へのPR活動など、外国人参加者の増加につなげるための取組を支援する。

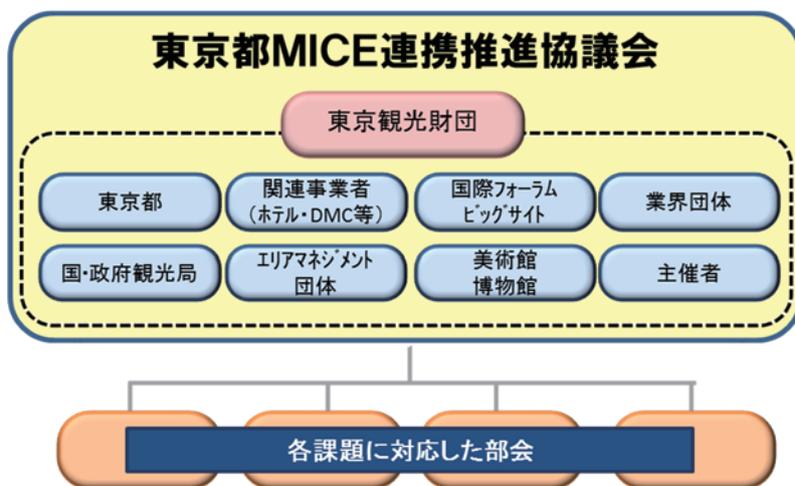
(MICEに係る高度な人材の育成)

- ▶ MICE誘致・開催を現場で担うMICE関連事業者の人材育成について、これまで実施してきた基礎的な内容の講座に加えて、より国際的でハイレベルな講座を開設するなど内容の充実を図る。

(官民一体となったALL TOKYOの取組の展開)

- ▶ MICEの誘致・開催を効果的に展開していくため、「東京都MICE連携推進協議会」において、東京観光財団が中心となり、国や関連事業者など関係主体がMICE誘致や開催に向けた情報共有や課題整理による連携を図り、「ALL TOKYO」による取組を展開する。

<連携推進協議会の構成>



- (主な役割)
- 誘致・開催に関する情報共有
 - MICEの意義や重要性の普及啓発
 - 具体的な連携に向けた取組の推進
 - など